

大日本スクリーン製造株式会社 2014年3月期 第1四半期 決算説明会

2013年8月9日

専務取締役 最高財務責任者(CFO) 領内 修

本日のアジェンダ

- 2014年3月期 第1四半期 連結業績
- 事業状況
- 収益改善の取り組みの進捗状況
- 2014年3月期 連結業績予想

資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

本日の決算説明会の内容：

- 2014年3月期 第1四半期 連結業績結果
- 各事業の状況
- 収益改善に向けた取り組みの進捗状況
- 2014年3月期 連結業績予想

2014年3月期 第1四半期
連結業績

2014年3月期 1Q連結業績結果

(単位：億円)	2013/3期					2014/3期		
	実績(据付完了基準)					実績	前四半期比	前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	伸び率	伸び率
売上高	666	428	348	554	1,997	593	7.0%	-11.0%
SE	516	280	235	373	1,406	433	16.0%	-16.1%
FE	48	20	20	30	120	41	35.2%	-14.8%
MP	99	125	90	147	463	116	-20.8%	16.9%
印刷関連機器 (MT)	89	107	81	123	401	100	-18.5%	12.6%
プリント基板関連機器 (PE)	10	18	9	23	61	15	-33.2%	54.7%
その他(外部売上のみ)	1	1	1	2	7	1	-40.5%	14.5%
営業利益	31	▲44	▲48	12	▲48	22	75.1%	-29.7%
SE	36	▲44	▲31	1	▲37	21	1267.8%	-42.3%
FE	2	▲5	▲5	▲0	▲8	1	-	-56.3%
MP	▲3	10	▲6	14	14	4	-70.8%	-
その他および調整額	▲4	▲4	▲4	▲3	▲17	▲4	-	-
経常利益	33	▲47	▲52	16	▲50	22	38.4%	-32.8%
当期純利益	20	▲89	▲53	9	▲113	16	87.2%	-17.3%

*SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。
*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

*当期より、SE、FEの装置の収益認識基準を、出荷基準から据付完了基準に変更
これに伴い、2013年3月に据付完了基準を遡及適用して表記

第1四半期の連結業績結果

■経済環境および当社を取り巻く事業環境

短信2ページ参照

- 売上高は593億円。ラッシュオーダーによるSE売上が増加した前年同期に比べて73億円減少(▲11%)、前第4四半期に比べて38億円(7%)増加
- 利益面は、売上が一定以上確保できたことと、緊急対応策の強化による固定費圧縮に努めたことにより、営業利益22億円、経常利益22億円、四半期当期純利益16億円

2014年3月期 1Q 連結業績分析 (前四半期比較)

売上高 1Q実績 593億円・前期4Q 554億円 (前期4Q比: 38億円増加)

(単位: 億円)

セグメント	1Q実績	前期4Q実績	差額	差異のポイント
SE	433	373	59	枚葉式洗浄装置、コーターデベロッパーが増加 地域別では、北米、欧州は減少したが、台湾、日本が増加
FE	41	30	10	中小型ガラス基板用コーターデベロッパーが増加
MP	116	147	▲ 30	
MT	100	123	▲ 22	消耗品(インク)は増加したが、 装置は季節要因により、CTP、PODともに減少
PE	15	23	▲ 7	露光装置、検査装置ともに減少

営業利益 1Q実績22億円・前期4Q 12億円 (前期4Q比: 9億円増加)

(単位: 億円)

セグメント	1Q実績	前期4Q実績	差額	差異のポイント
SE	21	1	19	売上増加および経費削減により増益
FE	1	▲ 0	1	売上増加により収益改善
MP	4	14	▲ 10	売上減少により減益

*2013年3月期のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

3

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD

第1四半期の各セグメント別状況 (第4四半期との比較)

■半導体機器事業 (以下SE) セグメント:

売上高: 433億円 (第4四半期比59億円増加)

枚葉式洗浄装置、コーターデベロッパーともに増加
台湾、日本がけん引

営業利益: 21億円 (第4四半期比19億円増加)

経費圧縮、売上の増加により増益

■FPD機器事業 (以下FE) セグメント:

売上高: 41億円 (第4四半期比10億円増加)

国内を中心に、中小型ガラス基板用コーターデベロッパーが増加

営業利益: 1億円 (第4四半期比1億円改善)

主に売上増加により増益

■メディア・アンド・プレジジョンテクノロジー事業 (以下MP) セグメント

売上高: 116億円 (第4四半期比30億円減少)

・印刷関連機器 (以下MT) 部門 売上高: 100億円 (第4四半期比22億円減少)

インクは増加。円安効果はあったが、季節変動要因によるCTP、PODが減少

・プリント基板関連機器 (以下PE) 部門 売上高: 15億円 (第4四半期比7億円減少)

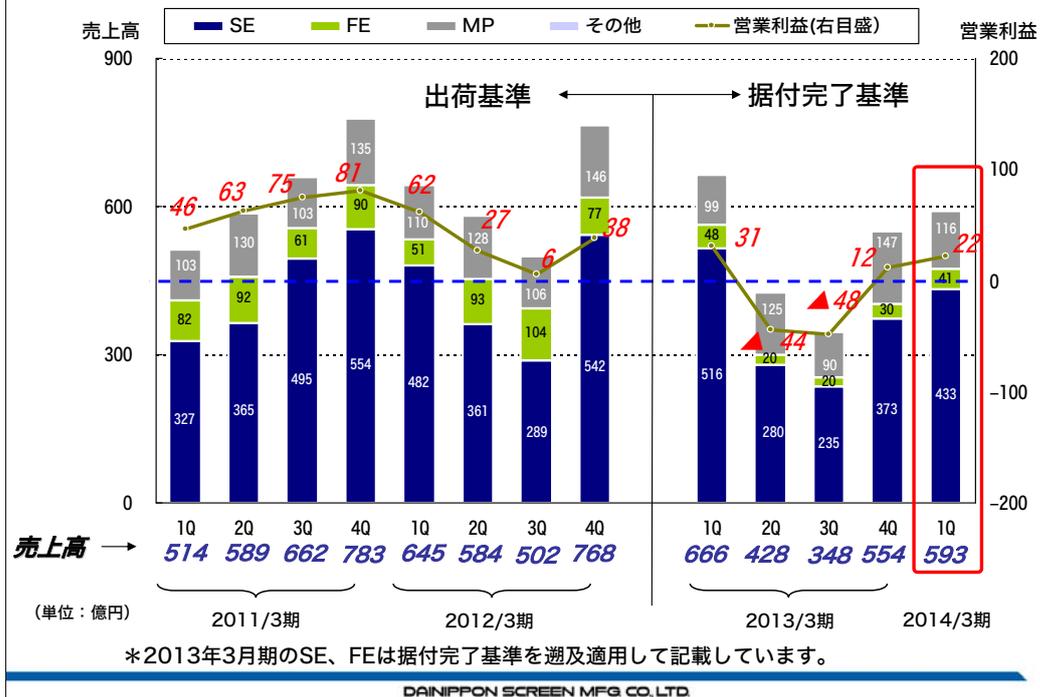
直接描画装置「Ledia5」が健闘するも、売上は減少

営業利益: 4億円 (第4四半期比10億円減少)

売上減少により減益

■第1四半期は3セグメントともに営業利益を確保

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



売上高と営業利益の四半期推移グラフ

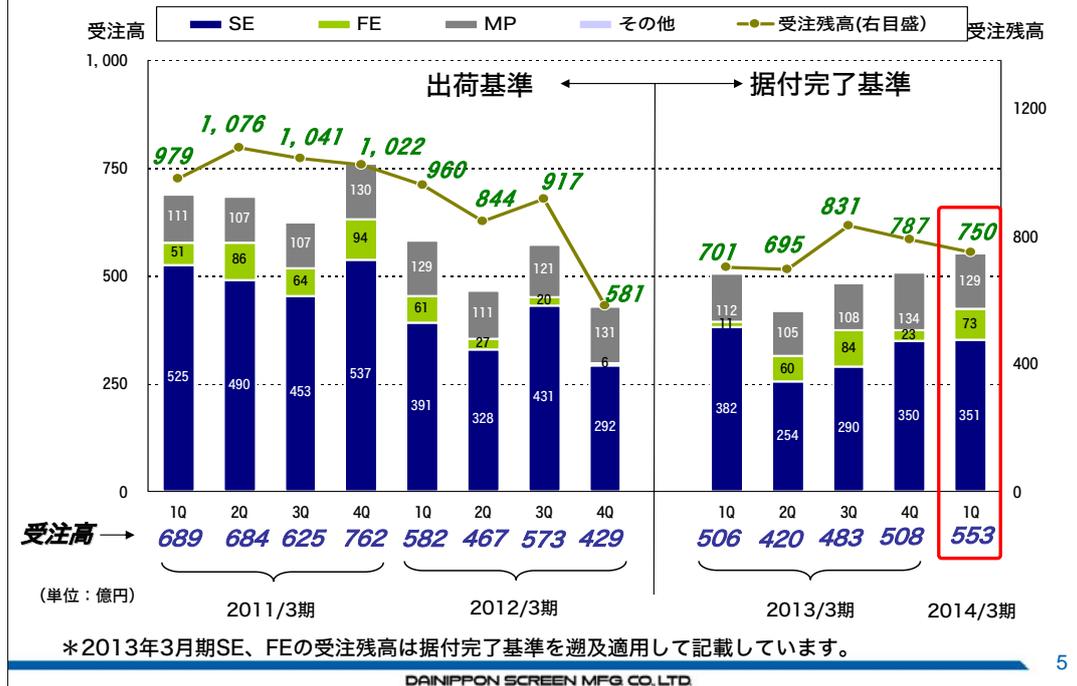
■売上高：

第1四半期は第4四半期に比べて、MPは季節要因により減少したが、SE、FEは増加
 第3四半期をボトムに、第4四半期、第1四半期と回復

■利益：

第1四半期は第4四半期に比べて、売上に対する工場操業度の低下による減益影響はあったが、売上増加による限界利益の増加に加え、固定費削減により増益

受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



セグメント別受注高・受注残高の四半期推移グラフ

■第1四半期の全社受注高：

553億円 (第4四半期比45億円増加)

■SEセグメント：

2013年5月の決算発表時に第4四半期と同水準と予想しており、ほぼ想定通りに着地。ファンドリーが減少したが、メモリー、ロジックでカバーし、351億円を確保

■FEセグメント：

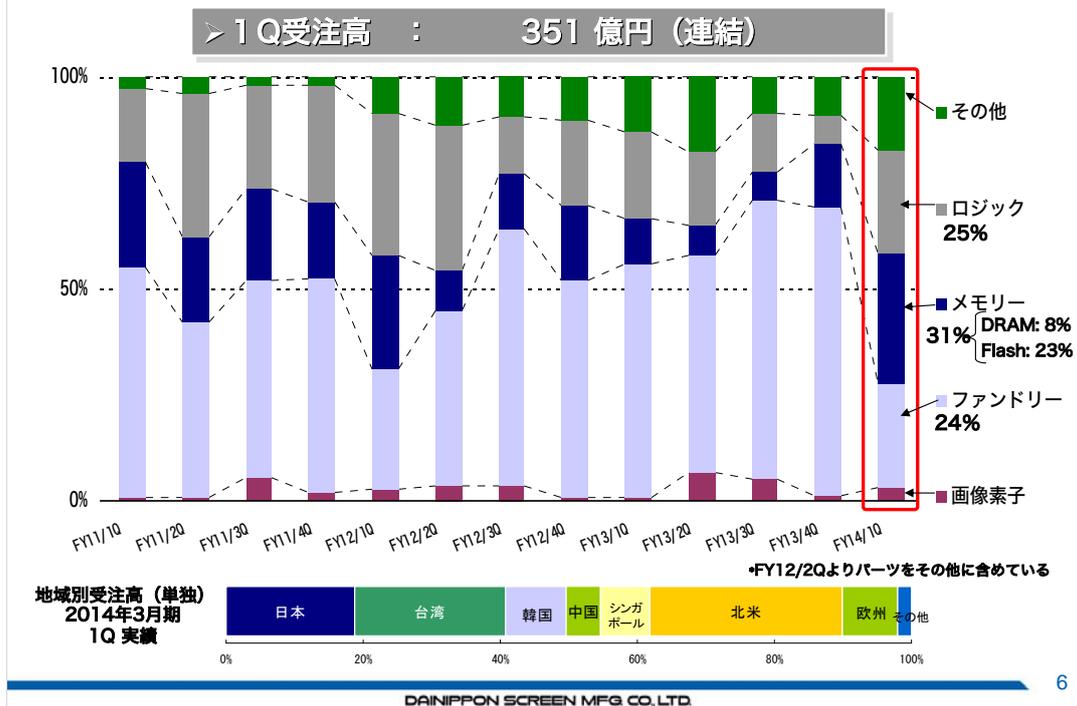
中国向けの大型商談を獲得し、第4四半期と比べて50億円増加し、73億円

■MPセグメント：

PE部門は第4四半期並みを確保したが、MT部門が減少し、MPセグメントとして5億円減少し、129億円

■全社第1四半期末受注残高：

750億円。十分な受注残高と言えないが、前期1Q、2Qからはそれなりに増加



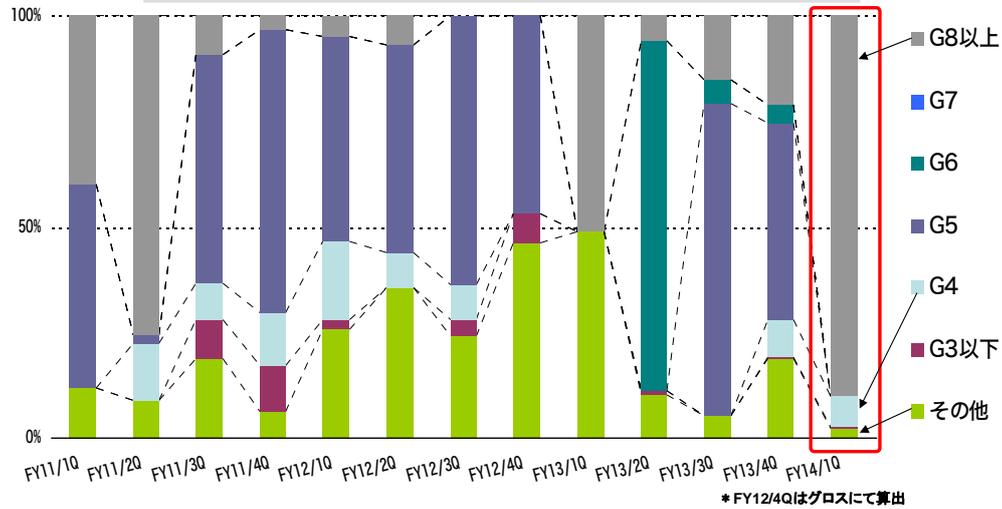
SEセグメントにおけるデバイス別受注比率

- 第4四半期に非常に多かったファンドリーからの受注は投資の端境期に入り、大幅に減少
- ロジックメーカーの動きは依然として不透明であるが、第1四半期の受注は当初の想定を上回った
- メモリーは、主にモバイルDRAM用、NANDの微細化向けの投資がけん引

以上より、第1四半期はファンドリー、メモリー、ロジックが、概ね均等な比率となった。第2四半期の受注は、ファンドリーは再び増加するが、メモリーが減少するとの予想から、第1四半期より減少すると見ている。

<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

>1Q受注高 : 73 億円 (連結)



地域別受注高 (単独)
2014年3月期
1Q 実績



* FY12/4Qはグロスにて算出

FEセグメントにおけるガラス基板サイズ別受注比率

■ 第1四半期は、中国向けにG8サイズ用装置を大型商談を受注

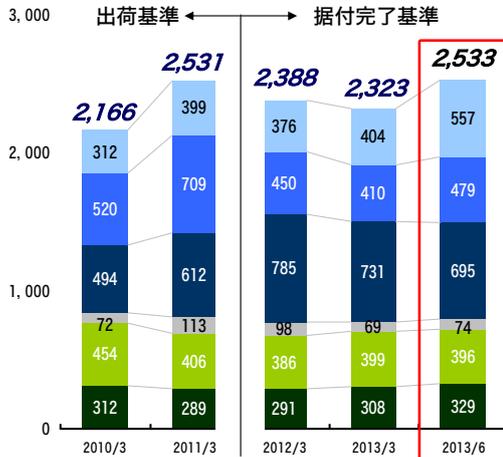
第2四半期の受注見通しは、中国向け商談が入れば、第1四半期並みは確保できるが、第3四半期にずれ込む可能性が高いため、現時点では第1四半期から減少すると見ている。

貸借対照表 (連結)

資 産

(単位：億円)

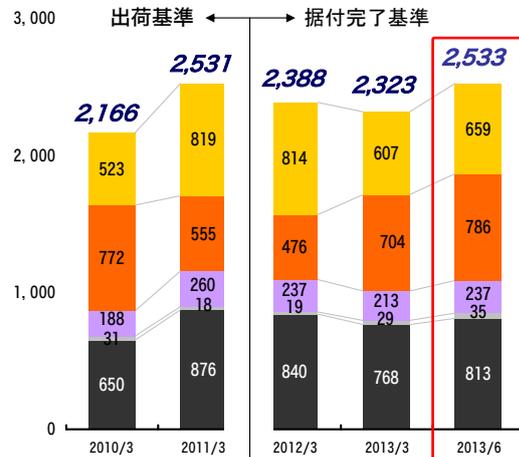
現金・預金
受取手形・売掛金
たな卸資産
その他の流動資産
有形固定資産
無形固定資産・投資ほか



負債および純資産

(単位：億円)

支払手形・買掛金
有利子負債
其他流動負債
其他固定負債
純資産



自己資本比率 32.8% (2013/3) → 31.9% (2013/6)

* 2012/3、2013/3のSE、FEは据付完了基準を遡及適用して記載しています。

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

8

2013年6月末 貸借対照表

■資産合計：2,533億円（前期末比209億円 9.0% 増加）

たな卸資産が減少、現金及び預金や受取手形及び売掛金が増加

■負債合計：1,719億円（前期末比163億円 10.5% 増加）

社債の発行や支払手形及び買掛金の増加

■純資産合計：813億円（前期末比45億円 5.9% 増加）

四半期純利益計上による利益剰余金の増加、保有株式の時価上昇および円安の影響により、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定がそれぞれ増加

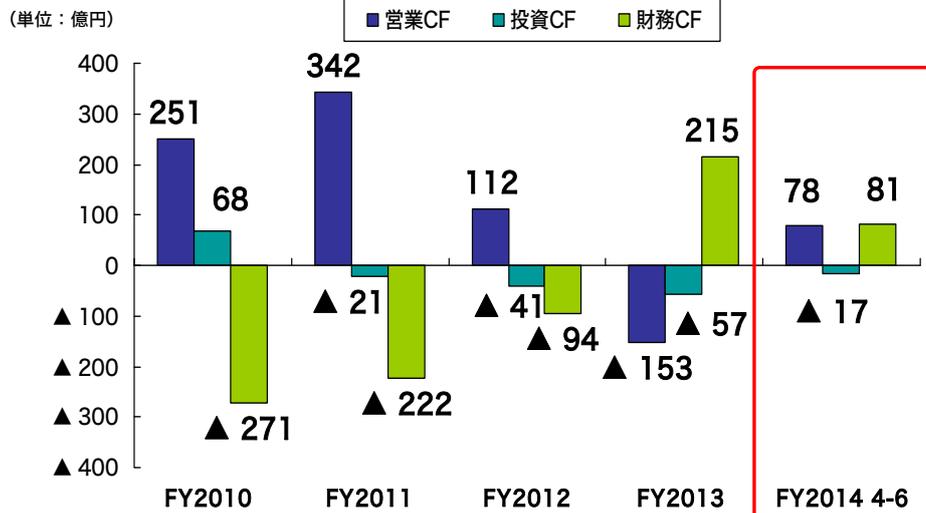
■第1四半期末の自己資本比率：31.9%

自己資本は増加したが、現金及び預金の増加などで総資産が増加し、前期末から0.9ポイント低下

経済状況の先行きが見えてくれば、手持ち現金による借入金返済を進め総資産を圧縮し、自己資本比率の向上に努める

キャッシュ・フロー（連結）

1Q フリーキャッシュ・フロー： 61億円



DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

9

キャッシュ・フロー

■営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益の計上、たな卸資産の減少、仕入債務の増加などの収入項目が売上債権の増加などの支出項目を上回り、78億円の収入（前年同期は15億円の収入）

■投資活動によるキャッシュ・フロー

研究開発設備等の有形固定資産を取得したことなどにより、17億円の支出（前年同期は19億円の支出）

■財務活動によるキャッシュ・フロー

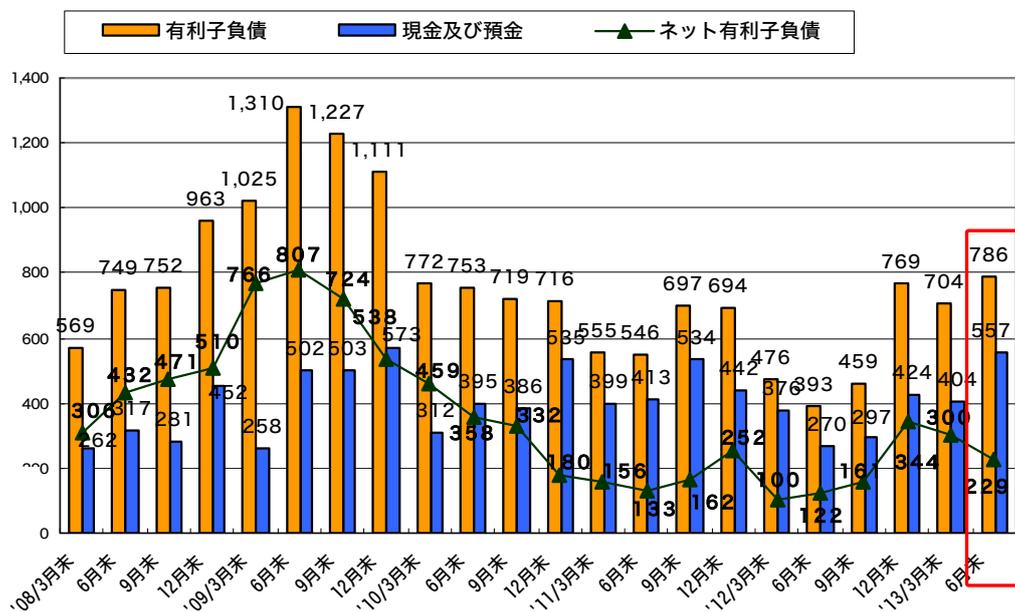
主に社債の発行による資金調達を行ったことにより、81億円の収入（前年同期は95億円の支出）

■当四半期末における現金及び現金同等物：531億円

（2013年3月末比 281億円増加）

有利子負債推移(連結)

(単位：億円)



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

有利子負債推移

- 当期末有利子負債：786億円
- 有利子負債から現金及び預金を除いた純有利子負債：229億円
(13年3月末比70億円減少)
- 前期は第1四半期から第3四半期までは純有利子負債が増加していたが、第4四半期には減少に転じ、第1四半期もさらに減少

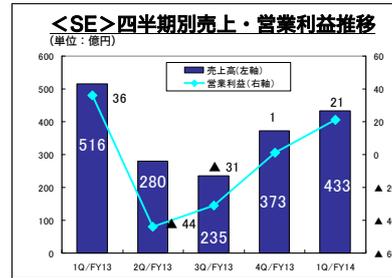
事業状況

セグメント別事業状況

SE

1Qの状況

- ・当1Qより収益認識基準を据付完了に変更
- ・受注は、4Q比でファンドリーが減少、一方、ロジック、メモリーは増加し、4Qと同水準を確保



*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

2Q以降の見通し

- ・上期売上において、メモリー、ファンドリーが5月予想を上回る見通し
- ・微細化に伴う洗浄装置市場拡大の恩恵は継続
- ・コストダウン効果は、プロダクトミックスの影響などにより一部オフセット
変動費率改善の利益への本格貢献は下期から

SE事業の状況

■第1四半期売上：

ファンドリーがけん引し、第4四半期より59億円増加

装置としては、第4四半期に比べ、枚葉式洗浄装置、コーターデベロッパーが増加、バッチ式洗浄装置減少

■第1四半期受注：

ファンドリーが大幅に減少したが、メモリー、ロジックが増加

■上期の売上：

メモリー、ファンドリー、ロジックともに5月予想を上回る見込み

装置別としては、バッチ式洗浄装置の売上構成比率は低下。枚葉式洗浄装置、コーターデベロッパーの売上構成比率が上昇

■第2四半期以降の見通し：

回路微細化、トランジスター構造の3D化などにより、洗浄プロセスの工程数が増加傾向

収益構造改革として、変動費率の改善に取り組んでいるが、2013年5月予想に比べ、プロダクトミックスの影響などにより、上期においてはコストダウン効果の一部がオフセットされる見通し

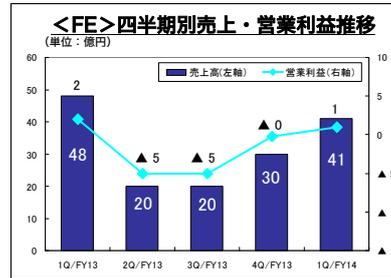
FE

1Qの状況

- ・当1Qより収益認識基準を据付完了に変更
- ・日本向け売上は横ばい、韓国向けが増加
- ・中国で大型商談を受注獲得
- ・改造ビジネスは堅調

2Q以降の見通し

- ・2014年に向けた商談が進行中
- ・引き続き中国での受注獲得を目指す



*FY13は据付完了基準に遡及適用して記載

FE事業の状況

■第1四半期の売上：

第4四半期比、日本向けは横ばい、韓国向けが増加したことにより
トータルとして10億円増加

基板サイズとしてはG5、G6の中小型

改造案件も売上に寄与

■第1四半期の受注：

中国でのTV用投資の大型案件を受注

加えて日本での中小型サイズの案件も受注

■第2四半期以降の見通し：

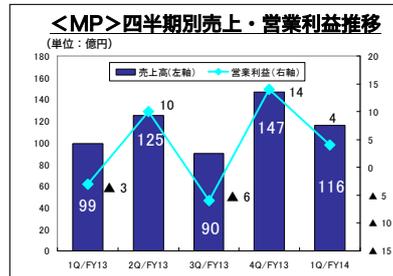
現在は2014年投資に向けた商談が進行中

中国案件が中心となる見込み

MP

1Qの状況

- ・印刷関連機器では、
欧州景気低迷、中国成長鈍化の影響
はあるものの、米国、日本は総じて堅調
- ・プリント基板関連機器は、直接描画装置が韓国で販売好調



2Q以降の見通し

- ・PODは欧州にて伸び悩み
- ・PODはパッケージ分野への展開を視野に、ラベルプリンター市場投入
- ・JGAS2013 (10/2~5) にて、国内市場でのPODに販促強化
- ・直接描画装置はハイエンド機投入によりさらなる売上増を図る

MP事業の状況

■第1四半期売上：

<印刷関連機器>円安の影響もあったが、第4四半期に比べ売上は22億円減少
地域別では、

国内、北米は、季節変動要因などにより第4四半期から減少したが、
総じて堅調に推移

欧州においては、景気低迷の影響により、低調な状態が継続

アジアオセアニアは、成長鈍化により、第4四半期から大幅に減少
装置別では、

CTPは新興国の景気鈍化の影響により減少傾向が続いた

PODは、季節変動要因はあるものの、北米は回復傾向

<プリント基板関連機器>韓国向けは堅調に推移したが、その他の地域や日本
では、第4四半期に比べ減少

■第2四半期以降の見通し：

<印刷関連機器>欧州においては厳しい状況は継続

日本、米国においては、PODの拡販に努める

PODについては、従来の商業印刷、トランザクションに加えて、
パッケージ業界への拡大を図るべく、ラベル用PODを市場投入

10月2日~5日開催展示会「JGAS2013」にて訴求

<プリント基板関連機器>ハイエンドをターゲットにした新製品「Ledia 5F」
を中心に、直接描画装置の拡販に努める

収益改善に向けた取り組み
進捗状況

構造改革

1. 研究費・設備投資効果的活用

5月予想通りに進捗

2. 変動費削減

上期はSE変動費率改善に遅れ

- ・プロダクトミックスなどの影響
- ・コストダウンの利益貢献時期の遅れ

下期には改善（5月予想通り）

3. 事業構造の再構築

赤字事業の改善は進行中

新規事業 — エネルギー、プリントエレクトロニクス、
検査計測の各分野に加え、ライフサイエンスへ

緊急対応

1. 人件費、諸手当カット

5月予想通りに進捗

収益改善に向けた取り組みの進捗状況

■構造改革：

1. 研究費、設備投資に関しては予想通り進捗しており、
研究開発費、設備投資額、減価償却費は、2013年5月予想から変更なし
2. 変動費削減に関しては、SEの変動費率改善が遅れ気味
プロダクトミックスの影響などにより上期においてはコストダウン効果の一部がオフセットされる見込み
コストダウン効果において利益貢献時期が遅れる見通し
下期においては、変動費率改善効果が見込まれる
3. 事業構造の再構築に関しては、
FE事業および半導体コーターデベロッパー事業は、売上拡大に向けて受注獲得を進めており、収益改善が図れる見通し
新規事業に関しては、従来より進めている
 - ✓リチウム電池、太陽電池の「エネルギー分野」
 - ✓印刷技術を電子分野に展開する「プリントエレクトロニクス分野」
 - ✓画像処理技術を用いた「検査計測分野」
 - ✓ライフサイエンスとして「高速3D細胞スキャナー発売」を8月7日発表

■緊急対応策：

1. 給与、手当等のカットに関しては、2013年5月予想の通りで進捗中

2014年3月期
連結業績予想

2014年3月期 連結業績予想

想定為替レート： 1米ドル= 95 円, 1ユーロ= 125 円

(単位：億円)

	2013年3月期			2014年3月期					
	実績 (据付完了基準)			予想 (5/10発表)			予想 (8/9発表)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,094	903	1,997	1,020	1,020	2,040	1,090	1,020	2,110
SE	797	609	1,406	680	650	1,330	750	650	1,400
FE	69	51	120	95	115	210	100	115	215
MP	225	237	463	240	250	490	235	250	485
印刷関連機器 (MT)	196	205	401	204	214	418	200	214	414
プリント基板関連機器 (PE)	28	32	61	36	36	72	35	36	71
その他 (外部売上のみ)	3	4	7	5	5	10	5	5	10
営業利益	▲ 12	▲ 35	▲ 48	25	40	65	25	40	65
SE	▲ 7	▲ 29	▲ 37	-	-	-	-	-	-
FE	▲ 3	▲ 5	▲ 8	-	-	-	-	-	-
MP	7	7	14	-	-	-	-	-	-
その他および調整額	▲ 9	▲ 8	▲ 17	-	-	-	-	-	-
経常利益	▲ 14	▲ 36	▲ 50	21	34	55	21	34	55
当期純利益	▲ 69	▲ 44	▲ 113	15	25	40	15	25	40

2014年3月期 年間配当金予想： 1株当たり3円 (期末配当金)・・・変更なし

18

DAIIPPON SCREEN MFG. CO., LTD.

2014年3月期の業績予想

これらの状況を踏まえ、2013年5月予想から

■ 上期業績に関しては、

売上に関しては70億円増 (SE：+70、FP：+5、MP：▲5)

営業利益に関しては変更なし (SE：若干増加、MP：若干減少)

■ 下期業績に関しては変更はなし

■ 配当金に関しては、当期純利益に変更がないことから、

2013年5月予想の1株当たり3円は変更なし

SCREEN

**<<参考>> 2013年3月期 連結セグメント業績
《 SE、FE装置販売 据付完了基準 遡及適用後 》**

(単位：百万円未満切捨)

		連結 遡及適用後					
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期
全社	売上高	66,623	42,843	109,466	34,895	55,433	199,795
	売上総利益	14,828	7,460	22,288	6,530	13,186	42,005
	販売費及び一般管理費	11,682	11,891	23,573	11,341	11,923	46,838
	営業利益	3,146	▲ 4,431	▲ 1,284	▲ 4,811	1,262	▲ 4,833
	経常利益	3,320	▲ 4,770	▲ 1,450	▲ 5,214	1,612	▲ 5,052
	当期利益	2,042	▲ 8,955	▲ 6,913	▲ 5,322	902	▲ 11,333
SE	売上高	51,654	28,086	79,740	23,577	37,371	140,689
	営業利益	3,654	▲ 4,433	▲ 779	▲ 3,127	154	▲ 3,752
FE	売上高	4,845	2,055	6,901	2,087	3,053	12,041
	営業利益	258	▲ 563	▲ 304	▲ 509	▲ 21	▲ 835
MP	売上高	9,977	12,546	22,524	9,070	14,729	46,323
	営業利益	▲ 303	1,004	700	▲ 686	1,460	1,474
その他	売上高	145	154	300	160	279	739
	営業利益	▲ 95	▲ 39	▲ 134	▲ 106	82	▲ 158
調整額	営業利益	▲ 367	▲ 399	▲ 766	▲ 381	▲ 412	▲ 1,560

総資産	222,402	208,213		228,308	232,390	
自己資本	82,098	72,520		71,139	76,249	
自己資本比率	36.9%	34.8%		31.2%	32.8%	